



南小 学校通信

大泉町立南小学校

NO. 12 令和3年10月18日(月)

味覚の秋、芸術の秋、スポーツの秋という好季節、皆様には充実した日々をお過ごしのことと思います。健康管理には、まだまだ気をつかうことが多いですが、引き続きご協力をお願いします。

10月から通常授業に戻り、音楽室からの歌声やリコーダーの音、体育の時間の歓声、休み時間の子どもの生き生きとした声が聞こえます。やっと小学校らしくなってきたような感じがします。勉強にも集中できる良い環境が整いつつあります。そこで、今年度の南小学校で取り組んでいる学力向上対策について紹介します。ご家庭でも参考にしてください。



南小学力向上に向けた各学年の取り組み

	国語	算数
1年	語彙を増やすために、 読み聞かせ をしたり、 読書 に親しませたり、 言葉集め をさせたりする。 読解問題に取り組みさせることによって、最後まで文章を読んだり、大切な文を探したりできるようにさせる。	基礎学力の定着を図るために、 計算カード や 計算練習問題 に取り組みさせる。 具体物や図などを用いて、自分の考えやその過程を説明する活動を取り入れる。
2年	語彙を増やすために、 読み聞かせ をしたり、 読書の推奨 や 言語に関する問題 に取り組みさせたりする。 読み取る力をつけるために、文章の中の重要な言葉や文を考える問題に取り組みさせる。	基礎学力を定着させるために、 既習事項を取り入れた問題 に取り組みさせる。 筋道立てて自分の考えを発表できるように、 リレー方式で互いの考えを補い合う活動 を取り入れる。
3年	語彙を増やすために単元ごとに指定した言葉や調べたい言葉を探し、 意味調べ をさせる。 表現力を高めるために、朝の会や帰りの会で スピーチタイム を設ける。	基礎学力を定着させるために 宿題のスキル 、 プリントの間違い直し を徹底させる。 思考力を育てるために、自分の考えを図、式、言葉で整理し、 ワークシートやノートに書かせる 。 友達の考えもメモ することで、多様な考えに触れさせる。
4年	読み取る力をつけるために 中心となる言葉や文・文末表現や接続語に着目させて読む活動を工夫 する。 語彙を増やすために、 意味調べや短文作り に取り組みさせる。	基礎学力を定着させるために授業の復習内容を中心とした プリントやドリルに繰り返し 取り組みさせる。間違いが多い問題は、単元終了後も計画的に復習し、定着を図る。
5年	授業では 考えたことや感じたこと を書く活動を意識して取り入れる。 語彙を増やすために 宿題で新出漢字を使った短文作りや熟語の意味調べ をさせていく。	表現力を育成するために、 具体物や図、式を使って自分の考えを説明する活動 を計画的に取り入れる。 基礎基本を定着させるために宿題でドリルなどに 繰り返し取り組み せ、間違えた問題は 直しまで 行わせる。
6年	書く力をつけるために、宿題で 作文 を書くことに取り組みさせ、段落を意識させたり、指定された長さで文を書いたりする機会を増やしていく。	数学的な考え方を育てるため、答えや解決方法の見当をつけてから 自分の考えをノートにまとめる活動 を多く取り入れ、共有していく。

多文化共生⑨

アメリカ合衆国 United States of America

アメリカの国旗は「星条旗」と呼ばれ、独立宣言をした翌年の 1777 年に制定された。初代大統領ワシントンは、この旗を「星は天を、赤は母国なるイギリスを、赤字を横切る白い条は母国イギリスからの独立を表す」といつている。13 の条は独立したときの州の数を、50 の星は現在の州の数を表している。



- ・人口 約3億2662万人
- ・国土の面積 982万6630km² (日本の25倍)
- ・首都 ワシントンD.C. Washington D.C.
- ・民族 ヨーロッパ系、アフリカ系、ヒスパニック、アメリカ・インディアン
- ・言語 英語
- ・宗教 プロテスタント、カトリック、ユダヤ教など
- ・通貨 アメリカ・ドル

- ・気候 全般には温帯気候に属しているが、中北部は亜寒帯、フロリダ半島は亜熱帯、西部の一部には極端な乾燥気候がみられる。東海岸は夏は高温多湿、冬は低温乾燥の四季がはっきりした気候を示す。西海岸の北部は温暖湿潤気候、南部は地中海性気候である。中央平原は西へ進むにつれて降水量が少なくなる。

- ・産業 農業は労働人口では2%、総生産に占める割合ではそれ以下に過ぎない。しかし広大な国土と高度に機械化された大規模経営で高い生産性を達成し、穀物と畜産物を中心に世界最大の農業生産国、農産物輸出国となり、世界の食糧事情に大きな影響力を持つ。林業も盛んであったが、環境保護の必要性から生産量は減少している。漁業も広範におこなわれ、特にアラスカ周辺での漁獲量が大きい。地下資源は多種多様で、鉱物、化石燃料ともに豊富である。しかし石油は消費量が膨大で、半分を輸入に依存している。世界で生産される石油の4分の1を消費している。
工業は南北戦争後に急速に発展を遂げ、第一次大戦後には世界一の工業国となった。70年代になるとアジアなどからの工業製品の輸入が増え始め、国内の製造業は衰退し、現在では輸入が輸出を6割以上も上回るようになった。この結果、労働人口では20%程度にまで低下している。それでもなお航空宇宙、情報通信、医薬品などのハイテク分野では依然として優位に立っている。工業にかわって商業とサービス業が成長し、総生産の4分の3を占めるようになった。金融、通信、放送、娯楽、運輸、ソフトウェアなどが特に発達している。成長しつつある国々は、アメリカへ工業製品を輸出し、その黒字でドル資産を買っている。これがアメリカを潤し借金をしてまで過剰な消費を続けるというサイクルが、世界経済の大きな流れになっている。いっぽうで“グローバル化”の名のもとに世界各国に経済の自由化を求めたことは、投資機会の拡大をもたらし、アメリカの投資家は多大な利益を得ている。